

参加申込

■ **申込方法** 事前登録が必要です。別紙参加申込書に必要事項をご記入の上、郵送、FAXにて下記へお送りください。また、Eメール、ホームページからお申し込みいただけます。

受付 先端技術フォーラム 2008 名古屋実行委員会
〒456-0058 名古屋市熱田区六番 3-4-41 名古屋市工業研究所内
FAX：052-654-9952
Eメール：forum@nmiri.city.nagoya.jp
URL <http://www.nmiri.city.nagoya.jp/event/forum2008.htm>

■ **登録票** お申し込みと参加費の入金を確認次第、参加登録票(1日目用と2日目用の2枚)をお送りしますので、当日必ずご持参ください。
参加登録票をお持ちであれば、参加する方が交代されても差し支えありません。ただし学生の方は、当日学生証を確認させていただきます。

■ **申込締切** 平成20年2月8日(金)

■ **参加費** ● 一般 **8,000円** (予稿集1冊を含みます。) ● 学生 **無料** (ただし、登録人数を制限させていただくことがあります。また、当日は学生証をご提示ください。)

■ **昼食** 一食1,000円にて手配します。必要な方は参加申込書にてお申し込みください。参加登録票とともに昼食券をお送りしますので、当日ご持参ください。

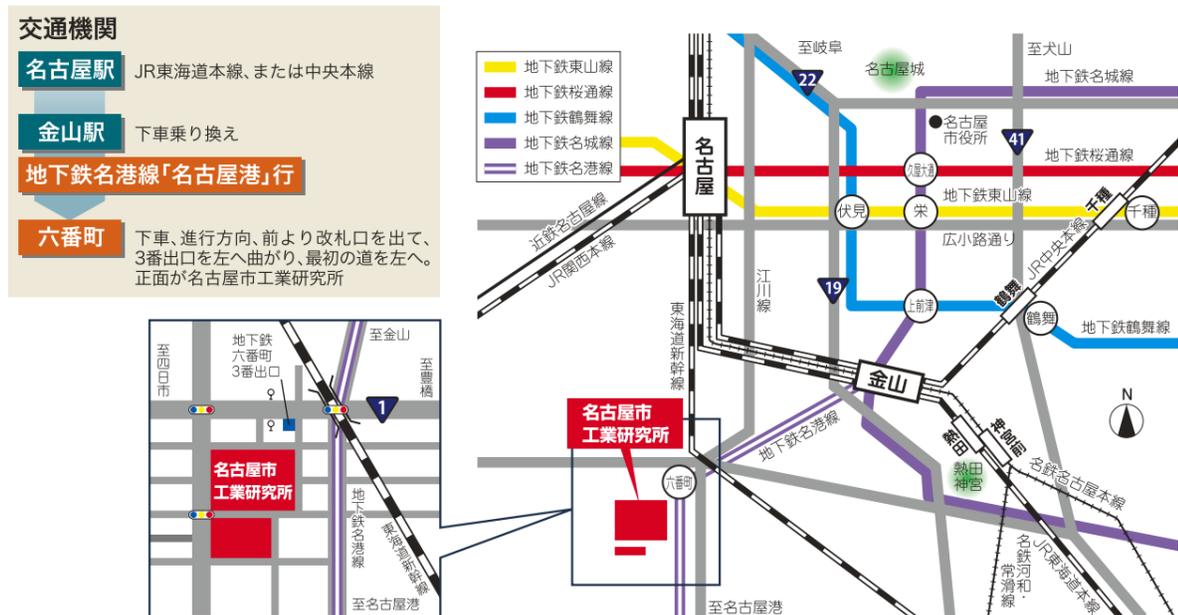
■ **定員** 300名

■ **支払方法** 参加費、昼食代は2月8日(金)までに下記銀行口座にお振込みください。振込手数料は振込人にてご負担ください。

振込先 三菱東京UFJ銀行六番町支店(店番663)
口座番号 (普通) 3543871
口座名 フォーラム2008 会計 浜田 幸弘(はまだ ゆきひろ)

■ **問合せ先** 先端技術フォーラム2008名古屋実行委員会事務局
TEL：052-654-9941、9938 FAX：052-654-9952 (名古屋市工業研究所 電子情報部 担当：濱田、野呂)
Eメール：hamada.yukihiko@nmiri.city.nagoya.jp noro.shigeki@nmiri.city.nagoya.jp

交通のご案内 できるだけ最寄りの公共交通機関をご利用ください。



先端技術フォーラム2008名古屋

先進エレクトロニクス技術の展望と課題 —ディスプレイデバイス開発と環境規制への挑戦—



日時：**2008年2月19日(火)～20日(水)**

場所：**名古屋市工業研究所 管理棟1階ホール**

名古屋市熱田区六番三丁目4番41号

<http://www.nmiri.city.nagoya.jp/event/forum2008.htm>

主催：**先端技術フォーラム2008名古屋実行委員会**
名古屋市、中部エレクトロニクス振興会、(財)名古屋市工業技術振興協会、(財)名古屋都市産業振興公社

後援：**中部経済産業局、東海総合通信局、愛知県、名古屋商工会議所**

【協賛】
愛知工研協会、(社)愛知電業協会、(社)応用物理学会東海支部、(財)科学技術交流財団、画像技術研究会、(社)組込みシステム技術協会中部支部、(社)計測自動制御学会中部支部、システム技術研究会、(社)自動車技術会中部支部、(社)情報処理学会東海支部、(財)中部科学技術センター、中部金型技術振興会、(社)中部経営情報化協会、中部治工具懇話会、中部自動化協会、中部生産加工技術振興会、中部塗装技術研究会、中部歯車懇話会、中部プラスチック技術振興会、中部溶接振興会、(社)電気学会東海支部、(社)電子情報通信学会東海支部、東海無機分析化学研究会、東海流体熱工学研究会、名古屋商工協同組合協会、名古屋テキスタイル研究会、(社)日本金型工業会中部支部、日本カム工業会、(社)日本機械学会東海支部、(社)日本技術士会中部支部、(社)日本繊維機械学会東海支部、(社)日本電機工業会名古屋支部、(社)日本伝熱学会東海支部、(社)日本配電制御システム工業会中部支部、(社)日本溶接協会愛知県支部、無機材料研究会、鍍金技術研究会(五十音順)

開催のご案内

平成に入り 20 年の節目を迎えようとする今日、日本経済は自動車や工作機械、エレクトロニクスなど各分野の旺盛な産業活動に支えられて、長期の好景気を続けています。しかし、この恩恵も広く社会全般に行き渡るまでにはいたらず、また、BRICs を始め新興国の急成長もあり、新たな技術の開発と製品化は、依然として重要な課題です。その一方で、生産活動の活発化とライフスタイルの変化が環境に及ぼす影響への懸念はますます強まり、社会構造のさまざまな段階で真剣な対応を迫られています。

そこで、今回のフォーラムでは、発展目覚しい先端技術であるディスプレイ・発光デバイスの動向とエレクトロニクス製品に関わる環境規制とをテーマに、企業の技術者・経営者の皆様に最新的话题を提供いたします。

ディスプレイ・発光デバイスは、自動車や工作機械から携帯電話、ホームシアター、家庭電化製品、ゲーム機まで、あらゆるところで機械と人とのインターフェイスとして不可欠な機器となっており、現在、その用途はさらに新たな広がり と 深まり を見せています。例えば、家庭用テレビは、より精密で迫力ある大型映像でありながら、本体は薄型のものが求められています。自動車用電装品では、小型・省エネルギータイプであることに加え、寒暖・振動などの厳しい環境下での耐久性を満たす部品が要求されています。

また、それらのエレクトロニクス製品のライフサイクルにおいて、環境保全のための規制が、ヨーロッパを中心に強力に進められており、製品のグローバル化とともに、大きな課題になっています。

IT 社会と呼ばれて久しい中、さらに技術立国として目指すべき新技術の創生と環境保全活動の強化のために、先進のエレクトロニクス技術の現状と動向をテーマとする本フォーラムへの多数のご参加をお待ちしております。

先端技術フォーラム2008名古屋実行委員会

構　　成	名古屋市 中部エレクトロニクス振興会 (財)名古屋市工業技術振興協会 (財)名古屋都市産業振興公社
------	--

委　員　長	石丸　典生	中部エレクトロニクス振興会　理事長(㈱デンソー　特別顧問)
副委員長	重松　　崇	中部エレクトロニクス振興会　副理事長(トヨタ自動車㈱　常務役員)
	松尾　隆徳	(財)名古屋市工業技術振興協会　会長(東洋電機㈱　代表取締役会長)
	清水　定彦	(財)名古屋都市産業振興公社　理事長(東邦ガス㈱　相談役)
	鈴木　邦尚	名古屋市市民経済局　理事(産業流通)
	山下　菊文	名古屋市工業研究所　所長

委　　員	山田　英生	愛三工業㈱　取締役	松尾　民男	(㈱)バッファロー　取締役　管理部長
	市川　周作	アイホン㈱　代表取締役社長	石川　茂樹	ブラザー工業㈱　取締役常務執行役員
	内桶　文清	住友電装㈱　取締役社長	瀬尾　英重	マスプロ電工㈱　代表取締役社長
	熊野　幹夫	(㈱)デンソー　常務役員	山崎　一成	(㈱)ミントウェーブ　名古屋工場　工場長
	山田　元一	(㈱)デンソークリエイト　代表取締役社長	長谷川順洋	理研産業㈱　代表取締役社長
	川下　史朗	(㈱)東芝　中部支社　支社長	内藤　弘康	リンナイ㈱　代表取締役社長
	富田　英之	東朋テクノロジー㈱　取締役社長	神崎　修三	(独)産業技術総合研究所　中部センター　所長
	森田　　隆	名古屋商工会議所　理事・産業振興部長	大西　保志	愛知県産業技術研究所　所長
	小林　悦朗	名古屋電機工業㈱　代表取締役社長	加藤　輝政	(財)名古屋市工業技術振興協会　専務理事事務局長
	大葉　正之	日東工業㈱　取締役副社長	久米　道之	(財)名古屋都市産業振興公社　常務理事
	永井　信行	日本電気㈱　中部支社長	和田　彰夫	名古屋市工業研究所　副所長
	千成　篤博	日本特殊陶業㈱　専務取締役・総合研究所長	濱田　幸弘	名古屋市工業研究所　電子情報部長
	萩原　義昭	萩原電気㈱　代表取締役社長	安部　浩二	中部エレクトロニクス振興会　事務局長

監　　事	坂井　　裕	(㈱)ユタカ電子　代表取締役社長
	伴　　謙治	名古屋市工業研究所　総務課長

プログラム

第1日目　2月19日(火)

●10：20～10：45　開会式
●10：45～12：00　基調講演
<p>「自動車用ディスプレイの動向」　(㈱)デンソー　ボデー機器事業部　副事業部長　浅井敏保氏</p> <p>近年、カーエレクトロニクスは急速な拡大を遂げており、今や車の中核技術となっている。今後車が利便、安全、安心を追求することでより使いやすく安全な製品に進化してゆく上でカーエレクトロニクスの進歩は更に重要度を増してゆく。一方で、車と人を繋ぐ技術に目を向けると表示を中心とした視覚系のエレクトロニクス製品は今後益々拡大、進化が期待される。’80年代後半から装着が始まったインストルメントパネル内の表示はカーナビゲーションの登場で一気に情報量を拡大し、メータなどの他の機器にも大きな影響を与え始めている。車両LANでつながれたエレクトロニクス機器からは多くの情報が運転者や同乗者へ伝えられ、ディスプレイの役割は更に増す上に将来は車外からのインフラ情報も加わり、運転支援の重要な機器へと変化すると考えられる。本講演では最近の車載ディスプレイの現状に加え将来動向についても言及したい。</p>
●12：00～13：00　昼食・交流
●13：00～14：00　講演1
<p>「液晶　ーその広がりと技術ー」　シャープ(㈱)　ディスプレイ技術開発本部　副本部長　石井　裕氏</p> <p>液晶はさまざまな課題を解決しながら、ノートパソコン、液晶モニター、カーナビ、携帯電話、そして液晶テレビなど幅広い応用商品を創出してきた。デジタル映像時代を向かえ、液晶ディスプレイの現状と今後の取り組みについてご紹介する。</p>
●14：10～15：10　講演2
<p>「有機EL　ーその広がりと技術ー」　ソニー(㈱)　ディスプレイデバイス開発本部　本部長　占部哲夫氏</p> <p>有機ELは照明などへの応用も期待されているが、次世代ディスプレイとしても大きなポテンシャルを持っている。この技術の概要を紹介すると同時に、ディスプレイとしての今後の発展と、そのために必要となる課題などを解説しながら有機ELという技術の広がりについて考える。</p>
●15：30～16：30　講演3
<p>「LED　ーその広がりと技術ー」　豊田合成(㈱)　オプトE事業部　第1技術部　技術推進室　室長　山中　脩氏</p> <p>赤色LEDが開発され約40年後に20世紀にはできないと言われていた青色LEDが開発され、また白色LEDも開発されたことでLEDの利用範囲が格段に広がってきた。この10年のLED利用について事例を挙げて説明する。</p>

第2日目　2月20日(水)

●10：00～11：00　講演4
<p>「照明とディスプレイ　ー非常識の常識化ー」　(㈱)北島製作所　代表取締役　北島繁優氏</p> <p>消費者の感性に訴えるさまざまな電子応用機器の開発、製造、販売の経験を基に、LEDや太陽電池を使用した屋内、屋外仕様 の平面発光照明など、照明とディスプレイの新たな形への夢とそれを支える技術の現状及び課題について述べる。</p>
●11：10～12：10　講演5
<p>「プロジェクターの現状と今後の進化」</p> <p>セイコーエプソン(㈱)　映像機器事業部　VI事業推進部　部長　森山佳行氏</p> <ol style="list-style-type: none">プロジェクターの概要 活用事例と課題　ー環境商品としての取組みー 将来に向けた進化
●12：10～13：10　昼食・交流
●13：10～14：10　講演6
<p>「欧州の環境規制と中国版RoHS　ー現状と将来ー」</p> <p>(社)産業環境管理協会　環境管理部門　化学物質管理情報センター　チーフエンジニア　松浦徹也氏</p> <p>EUではRoHS指令、REACH規則が相次いで発効した。日米中韓でEUに呼応するようにRoHS規制法が施行され、EU以外のREACH法の動向が取りざたされている。化学物質規制の概要の解説と動向を探る。</p>
●14：20～15：20　講演7
<p>「東芝における鉛フリー技術の現状」</p> <p>(㈱)東芝　生産技術センター　実装技術研究センター　センター長　森　郁夫氏</p> <p>東芝の鉛フリー化における開発技術と現状を、はんだ材料、実装プロセス、信頼性の観点から紹介する。</p>

- 展示場にて、エレクトロニクス関連の製品・パネル展示